

で、途中にソファを置いて足を休められるようにしています」

「これだけ広いと安全への目配りも大変そうですね……」

佐藤 「それでも身体拘束は極力行わず、できるだけ自由に動いていただいています。拘束することによるご本人の苦痛や廃用症候群といったデメリットと、拘束しないことによる転倒や骨折といったリスクの増加、その双方をご家族にも説明して理解をいただいています」

● 転倒や骨折のリスクにはどう対応されるんですか？

佐藤 「骨折をご本人が自覚できないケースもあるので、それぞれの患者さんの歩き方や行動パターンを普段から観察・把握するよう心がけています。歩き方や行動が普段と少しでも違っていたら、足や脳に何らかの異状が起きている可能性がありますから」

学習療法、回想療法

さらなる取り組みとして、学習療法と回想療法を紹介していただきました。



学習療法のドリル

「学習療法は患者さんのレベルに応じて、計算問題や筆記課題を行うことによって、機能回復の促進が期待される。頭脳も使わないと退化してしまう点では、身体と同じようだ。」

回想療法は患者さんが集って、昔の思い出話を共有すること

によって、不安や焦燥の軽減といった精神的な安定が期待される。認知症の患者さんは、新しい記憶を定着させるのは難しくても、昔



回想療法で使われている懐かしの道具

の記憶はしっかりと残っていることが多いので、思い出話になると盛り上がり過ぎて楽しいひと時を過ごしていただけるのだ。

回想療法で使われている道具を見せていただくと、お手玉に湯たんぽ、お手玉、けんかゴマ、メンコ、そろばん……時代を感じる品々がずらりと並ぶ。自分が高齢者になったときに回想法で使われるのは何だろうかと、つい思いをはせてしまった。ガンダム、なめ猫、ゲームウオッチ、ドラクエ、ガラケー……完全に年代がバレますね(笑)。

詰所にもひと工夫

ホールに面するサブステーション(詰所)には、患者さんの作品だけでなく、本日の日付が大きく張り出されていた。

● これも治療的な意味があるんじゃないか？

佐藤 「今日は何月何日か？ ここはどこか？ といった見当識を持っていたいただくための工夫です。これらも全て詰所のガラス内側に貼り付けて、紙の誤食



サブステーション

浴室に潜入！

と、ちよつどそのとき、患者さんの入浴時

間が終了したので、浴室を見学させていただくことに。

足を踏み入れるとそこは、隅々までキレイに磨き上げられ石鹸のいい匂いが漂う、ホテルの大浴場と

たがわぬ清潔感あふれる浴室だった。

一般的な浴槽と違うのは、階段がしっかりと付いている点だろうか。転倒を防ぐための安全配慮が徹底されている。

浴槽の隣スペースには、なにやら未来の入浴マシンのようなものが置かれていた。

● コレは何ですか？

佐藤 「車椅子の患者さんなどに、座ったままの姿勢で入浴していただくためのものです。この業界では以前から使われていて、目新しいものではないです(笑)」

ちなみに患者さんは、浴室に行きましょつと声をかけると嫌がって拒否されることも多く、かといって入浴しないと清潔面が良くないので、そんなときは「ちよつと私と歩いてみましょうよ」等、うまく言って浴室にお連れするのだという。すると当初は入浴を嫌がっていた患者さんも、いざ浴槽に浸かると気分がよくなって湯船から出たがらなくなるというから、現場のスタッフさんの



未来の入浴マシン？



階段でしっかり安全配慮された浴槽

苦勞はしのばれるけれど、人って面白いものだなあとつくづく思う。

お仕事への思い

● 認知症の患者さんと関わる現場は、やはり大変な面も多いのでは？

佐藤 「それが、病棟スタッフも私も疲弊せず楽しくがんばれているんです。これは私がC6病棟に来る以前から育まれている財産として、いま感じている雰囲気ですね」

● それは何がいいのでしょうか。

佐藤 「認知症の患者さんって世間一般のイメージとは違って、コミュニケーションが豊かに築ける患者さんが多いんです。たとえ記憶の連続性は無くても、こちらが誠実に関わると患者さんもしっかりと応えてくださいます。それが日々嬉しくて、だからこそ患者さんが失禁されたりしても笑顔で対応できている気がします」

こつこつと佐藤さん、これからも素敵な笑顔で患者さんの力を引き出していただきます！

(取材と原稿／臨床心理士・名倉)



佐藤和子 (さとう かずこ)

